

～集い ふれあい 助け合い～
『みんなで創る 人と自然が輝くまち きやま』

第4次基山町総合計画 ダイジェスト版



佐賀県基山町



はじめに

基山町は、「心豊かな美しい人間関係の創造」と「自然と共生した都市魅力の造形」を基本理念として、まちづくりに取り組んでまいりました。

今回、第4次総合計画の策定にあたりその基本理念に加え、社会動向を見据えて住民と行政が共に考え、行動する「みんなが進める協働のまちづくり」を新たな手法として取り入れ、今後10年間更なる発展へ向けて基山町のまちづくりを進めてまいります。

今回の策定にあたっては、町民と行政の協働を重視し、住民参加の手法であるワークショップにより、多くの町民の方々の意見やアイデアを聞くことができました。このことはまちづくり計画作成の大きな力になりました。

協働とは、あるべき姿の実現に向けて、住民、地域、団体、企業、行政が対等な立場で同じ価値観、共通の目標を持って協力し合うことだと思っております。これからの社会には多様な担い手がそれぞれの役割を果たす新たな支え合いの仕組みの構築が必要不可欠です。

今後、この協働を忘れずに、共に参加することの喜び、協力することの楽しさ、そして同じ達成感・満足感を享受し、町民一人ひとりが元気で明るい生活を楽しめる町にしたいと思います。

基山町がもつ自然の豊かさと歴史を守りつつ、高い交通の利便性を活用し、隣接する都市との連携も図りながら、活力ある基山町の存在感を示してまいります。

この基本構想を、私たちのふるさと基山のまちづくりの原点として、多くの町民の皆様方のご理解とご協力を得て実行に移し、この計画に魂・命を吹き込んでまいりたいと思います。

終わりにになりましたが、今回の策定にあたり熱心にご審議いただきました総合計画審議会の皆様をはじめ、関係各位の皆様のご協力に心からお礼申し上げます。

基山町長 小森 純一

総合計画とは？

まちの将来像やまちづくりの目標を定め、それを実現するために必要な施策等の基本的な方針を定めるもので長期的、総合的な振興計画です。

総合計画は、基本構想、基本計画、実施計画の3つから構成されています。

計画の構成と期間

基本構想

まちづくりの基本理念と将来像を掲げ、それを実現するための施策大綱を示し、長期的なまちづくりの指針となるものです。

●期間 10年間（平成18年度～平成27年度）

基本計画

基本構想に掲げた将来像や目標の実現に向けて取り組む施策体系と、主要事業の内容を明らかにした計画です。

●期間 10年間（平成18年度～平成27年度）

※社会的、経済的要因などによる情勢の変化に応じて、必要な見直しを行います。

実施計画

基本計画に示した施策への具体的な取り組みや、実施期間等を明らかにした短期的な計画で、毎年度における予算編成や事業実施の指針となります。

●期間 3年間（平成18年度を初年度とし、3か年計画で毎年度見直し）

平成18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
基本構想									
基本計画（社会的、経済的要因などによる情勢の変化に応じて、必要な見直しを行います）									
実施計画									

まちづくりの基本理念

基山町は、「心豊かな美しい人間関係の創造」と「自然と共生した都市魅力の造形」をまちづくりの基本理念として、さまざまなまちづくりに取り組んできました。

第4次総合計画では、これまでのまちづくりの基本理念を踏襲しながら、「心豊かな人と人との関係づくり」、「自然と共生したまちの魅力づくり」に加え、社会動向を見据えて住民と行政が共に考え、行動する「みんなが進める協働のまちづくり」を理念として、新たに掲げます。

心豊かな人と人との関係づくり

近年、ややもすると個人の生活が優先され、コミュニティの希薄化がみられるようになってきました。しかし、安全で快適に暮らしていくためには、人と人の心豊かな関係が大切です。

これまで培われてきた連帯感や共同意識を失うことなく「心豊かな人と人との関係づくり」を基本理念とします。



自然と共生したまちの魅力づくり

住宅団地や工場団地の開発、それらに併行して幹線道路も整備され、本町における社会基盤も整いつつあります。

まちの魅力をその大きさや利便性だけに求めるのではなく、基山町の貴重な財産である自然や歴史・文化を活かし、さらに共に生きる「自然と共生したまちの魅力づくり」を基本理念とします。

みんなが進める協働のまちづくり

都市化の進展や少子高齢化などによる人口構成の変化に加え、住民意識や価値観の多様化、生活様式の高度化により、子育てや高齢者、環境、防犯・防災問題など住民にとって身近な課題は、ますます複雑化し、多岐に渡っており、これまで以上に住民が問題の解決に関わっていくことが重要となってきました。また、分権社会が進むなか、自己決定と自己責任に基づき、地域のことは地域で決定していくことが求められています。

住みよいまちづくりに向けて、町民一人ひとりが地域に関心を持ち、地域で主体的に取り組むことが重要であり、一方、行政においても福祉の増進や基盤整備など、本来の役割を果たすことはもとより、町民と行政とが共に考え、行動していく「みんなが進める協働のまちづくり」を基本理念とします。



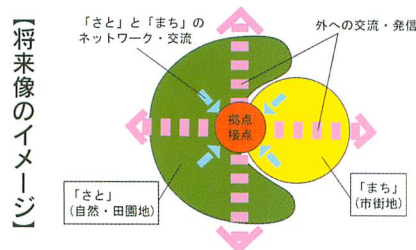
基山町の将来像

基山町は、豊かな自然環境のなかで、古くから培ってきた伝統と文化に恵まれています。また、九州各地を結ぶ交通のクロスロードに位置し、これまで企業の進出や大型宅地開発が進み、総合公園をはじめ道路など骨格的な社会基盤を整備し、自然と文化に包まれたゆとり生活創造都市として発展を続けてきました。

今、基山町を取り巻くさまざまな局面で大きな転換期を迎えています。福岡市をはじめとする都市との連携も図りながら、基山町の存在感を示していくために、豊かな自然や伝統と誇りある歴史と文化などの魅力を守り伝え、創造していきます。また、誰もが生き生きとした暮らしを実現するために、町民と行政が手を携えて、人と人との絆を大切にしながら、町民全体で暮らしやすい環境づくりを進めます。

まちづくりの基本理念を念頭に、恵まれた自然環境や伝統、文化といった基山町ならではの魅力を活かします。そして、子どもから高齢者までみんなが集い、ふれあい、助け合うなかで、誰もが安全に安心して快適に暮らせる環境を町民と行政が協働してつくり上げ、住み続けたいまち、帰ってきたいまちを目指します。

～集い ふれあい 助け合い～
『みんなで創る 人と自然が輝くまち きやま』



● 人が輝く

みんなが集い、ふれあい、助け合い、力をあわせてより良い暮らしの環境をつくり上げ、町民一人ひとりが輝くまち

● 自然が輝く

基山町の魅力である自然や田園地の「さと」、市街地の「まち」との関係を大切に、自然が輝くまち

基山町の将来フレーム

	平成12年 国勢調査	平成17年 住民基本台帳	平成22年	平成27年 (目標年次)	将来目標
人口	19,176	18,616	18,900	19,000	21,000
世帯数	5,572	5,948	6,100*	6,150	6,800

人口の伸びは微減傾向が続いており、財政的にも厳しさを増す中、人口誘導策としての新たな大規模宅地開発は難しい状況で、今後は既存市街地を生かした魅力づくりなど、市街地の拡大に頼らない誘導策も考えていく必要があります。

人口推計的には、平成12年度から減少傾向にあり、そこからの住民基本台帳データを基に見込んだ場合、この傾向が続けば、平成27年度末の人口は17,700人前後になると推計されます。

しかし、本町の有する資源を十分に活用し、協働による魅力的なまちづくりを積極的に進めることで人口増を図り、目標年次には19,000人を想定します。また、さらに将来的には21,000人を目標とします。

基本計画

● 新たなまちづくりに向けて

本町の将来像 ～集い ふれあい 助け合い～『みんなで創る 人と自然が輝くまち きやま』を実現していくために、まちづくりの推進方策と、5つの姿をまちづくりの目標として掲げます。

● まちづくりの推進方策

町民と行政との協働のまちづくりを目指して

豊かな暮らしを実現するために、町民と行政との新たな関係、「協働によるまちづくり」を進めるとともに、これまでの行政運営の考え方から今一歩進めた行政システムを構築し、合理的で透明性が高く、誰もが納得できるような行財政運営を進めます。

協働のシステムを構築します

政策判断の合理性を高めます

確かな自治体経営を進めます

広く広域交流、広域行政を進めます

● まちづくりの目標

1. 身近で豊かな自然を守り受け継ぐまち

町民と行政が一体となって豊かな自然を守り受け継ぎ、身近に自然があふれる基山町を目指します。

- 均衡ある計画的な土地利用の誘導
- 水辺とふれあう河川環境づくり
- 緑とふれあう環境づくり
- 環境を守る基盤と体制づくり



2. 豊かな心を育み文化を受け継ぐまち

子ども達一人ひとりの個性や長所を伸ばす特色ある教育の充実を図るとともに、豊かな自然環境と交通の要衝地という立地特性のなかで培われた伝統や文化を受け継ぎながら、誰もがいつでも学べる環境づくりを進め、豊かな心を育む基山町を目指します。

- 子ども達の個性を育む教育環境づくり
- いつでも誰でも学べる生きがいづくり
- 誇りある伝統・文化を受け継ぐまちづくり



3. みんなが集いふれあい助け合うまち

町民すべてが助け合いながら、心と体の健康づくりを進めるとともに、だれもが福祉サービスの利用者にも提供者にもなりうるという視点から、利用者の立場に立った質の高い福祉サービスを提供し、子どもから高齢者まで、みんなで助け合う基山町を目指します。



- 心と体の健康づくり
- 暮らしを支えるしくみづくり
- 子育てを支える
- 高齢者を支える
- 障害者(児)を支える
- すべての人が尊重されるまちづくり

4. 安全に安心して快適に暮らせるまち

基山町らしい緑に包まれた落ち着きと豊かさを感じるまちづくりと、人々が集いにぎわう町の顔づくりを進め、安全に安心して暮らせる基山町を目指します。



- 町の顔、暮らしの活動の拠点づくり
- 生活の基盤を支える道づくり
- 落ち着きと豊かさを感じる街並みづくり
- もしもに備える環境づくり

5. 暮らしを支える活力あるまち

自然環境や都市住民との結びつき、さらに農業や観光、商業、工業など産業間での結びつきを活用した活性化を進め、活力ある基山町を目指します。

- 豊かさを感じる農林業の振興
- 活力ある工業の振興
- 賑わいのある商業の振興
- 魅力を活かした観光の振興



第4次基山町総合計画 ダイジェスト版

発行日 平成18年9月
編集・発行 基山町
〒841-0204
佐賀県三養基郡基山町大字宮浦666番地
TEL 0942-92-2011 (代表)
FAX 0942-92-2084
URL <http://www.town.kiyama.lg.jp>
